

ドローン使い大規模実証

獣害対策資材輸送で改革

バイオマスパワーテクノロジーズ

バイオマスパワーテクノロジーズ(三重県松阪市、北角強社長兼CEO)と、同社グルー

プの玉木材(奈良県五條市、同社長)は3、10日、獣害対策資材のドローン輸送実験を行った。両社は「新しい林業」の構築を目指す。紀伊半島の山々は、鹿による深刻な食害被害が続き、植林しても育たないという悪循環に陥っていた。食害から森を守るためには防



ドローンで資材輸送

獣対策資材の設置が不可欠だが、支柱や網など重量物の人力輸送は困難で、特に急斜面での作業は危険を伴い多くの時間とコストを強いられてきた。

今回、ドローン事業者と林業事業者がドローンを活用した新しい林業の構築を目指し、奈良県五條市の山間部で実証実験を行い、輸送時間、機体の安定性、発着陸の安全性などのデータを収集した。世界シェア70%を誇るDJIの最新鋭物流ドローン「DJI FlyCart 30」

を使用。最大積載量40kgで、急勾配の山林を1日当たり50回、実験期間中に300回を超える大規模な荷上げを計画。現場からは「荷物を背負う場合に比べ、格段に楽になると思う」との声があり、林業従事者の負担軽減等労働環境改善への期待が高まっている。

この取り組みは、バイオマスパワーテクノロジーズが計画・実施するNEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)の支援事業「紀伊半島エリア各地でのセンダン・ヤナギ

類・ナラ類・カシ類等の育苗・植林・搬出実証」事業の一環。今後はバイオマス燃料による発電事業や森林再生に取り組み同社が中心になり、実験で得られたデータを詳細に分析。新たな手法や技術開発につなげる方針だ。